



大浦天主堂キリシタン博物館 ♡企画展

日本二十六聖人
列聖160周年記念

サントスと呼ばれた 聖人たち

キリシタンの祈りの言葉

2023 1.14(土) - 3.5(日)

入場料 大浦天主堂拝観料に含まれます

大人 1,000(900)円 / 中高生 400(300)円 / 小学生 300(200)円
*()は20名以上の団体料金



大浦天主堂 キリシタン博物館

Nagasaki Oura church - Christian Museum



「守護の天使、保護の聖人、
われを照らし、護り、導き給え」



【開館時間】1月~2月/8:30~17:30(最終入館17:00) 3月/8:30~18:00(最終入館17:30)

〒850-0931 長崎市南山手町5-3 TEL095-801-0707 FAX095-801-0708 <https://christian-museum.jp/>

主催 NPO法人世界遺産長崎チャーチトラスト カトリック長崎大司教区

大浦天主堂キリシタン博物館 ✦ 企画展

日本二十六聖人 列聖160周年記念 サントスと呼ばれた 聖人たち

キリシタンの祈りの言葉

2022年6月8日、日本を代表する聖人である「日本二十六聖人殉教者」の列聖160周年を迎えました。当館ではそれを記念し、聖人とのかかわりをテーマに展覧会を開催いたします。

カトリック教会において重要な存在である聖人は、キリスト教の教えとともに日本にも伝えられました。布教当時は「聖人」という日本語ではなく、ポルトガル語の「サント」、複数形「サントス」という言葉が用いられ、『サントスの御作業』と題された聖人伝などが刊行されました。

潜伏期の祈りの言葉をみると、多数の聖人の名前やサント、サントスという言葉が見受けられ、潜伏キリシタンたちが聖人への祈りを信仰生活の支えとし、その重要性を認識していたことがわかります。

また、潜伏期には特定の地域や信仰共同体にかかわりの深い人物が崇敬されるようになっていき、そのような聖なる存在にかんする独自の祈りの言葉が作られることもありました。

本展覧会では、日本二十六聖人に改めて焦点をあてるとともに、特にキリシタンたちが崇敬していた聖人たちを中心に、信仰生活における聖人とのかかわりについてご紹介いたします。

第一章

聖人との かかわり

ローマ・ミサ典礼書
(大浦天主堂キリシタン博物館)



第二章

キリシタンと 聖人

ド・ロ版画《聖ペトロ》
(大浦天主堂キリシタン博物館)



第三章

潜伏キリシタンの 聖なる存在

アワビ貝
「オタチパンノオンヤクニン様」
(堂崎天主堂キリシタン資料館)



TOPIC

日本二十六聖人

1597年2月5日、長崎の西坂の丘で宣教師や信徒たちがキリスト教の信仰を理由に処刑されました。彼らは日本での布教開始以来、初の殉教者として世界に知られ、崇敬を受けています。26人の殉教者は、教皇ピウス9世により1862年6月8日に列聖されました。大浦天主堂はその後1864年に完成、翌年に献堂式が行われ、日本二十六聖人に捧げられました。



メダル
《日本二十六聖人殉教図》
(大浦天主堂キリシタン博物館)

